

TOPICS

シンポジウム「牛海綿状脳症（BSE）制圧に向けたナショナル・プロジェクトの展開」を開催

シンポジウム「牛海綿状脳症（BSE）制圧に向けたナショナル・プロジェクトの展開」が平成 14 年 12 月 2 日 10 時 30 分～17 時 15 分、JA ホール（東京大手町）において、主催：農林水産省農林水産技術会議事務局、共催：独立行政法人農業技術研究機構、後援：文部科学省、厚生労働省、日本学術会議、日本神経学会、日本獣医学会、日本畜産学会により開かれた。岩本睦夫農林水産技術会議事務局長の挨拶に続き寺門誠致農研機構理事が共催者として挨拶して開会、(財)日本生物科学研究所の山内一也理事の座長で、英国獣医学研究所 TSE 研究担当部長 Danny Matthews 博士により「英国におけるこれまでの BSE 研究と今後の展開」と題した基調講演が行われた。午前は、技術会議事務局西川孝一研究総務官の座長により農水省の BSE 研究の取り組みを土肥宏志研究開発企画官が紹介し、当所清水実嗣所長がプリオン病研究センターの設立について講演した。午後の部は清水所長の座長で、1)「プリオン病の発生メカニズムの解明」のセッションでは国立精神・神経センター神経研究所の金子清俊部長と当所プリオン病研究センターの横山隆チーム長が、2)「プリオン病診断技術の開発」のセッションでは神戸大学農学部の Roumiana Tsenkova 助教授、東京大学大学院農学生命科学研究科の小野寺節教授及び当所プリオン病研究センターの品川森一センター長がそれぞれ講演した。最後に全講演者が壇上に上がり山内一也日生研理事がコーディネーターを務めてパネルディスカッションを行い、シンポジウムを締めくくった。科学的にはまだまだ解明すべき多くの課題を残しているプリオン病研究の現状と今後の展開という話題に獣医、畜産技術者を中心に 500 名を越える参加者を得て、盛会裏に幕を閉じた。（プログラムは 15 ページをご参照下さい。）

翌 12 月 3 日午後、本シンポジウムのために招聘した Matthews 博士を動物衛生研究所に迎えた。約 2 時間という短い時間であったが、大会議室にてプリオン病研究に係わる研究者、研修生を前にシンポジウムでは発表する機会がなかった試験成績なども含め紹介していただいた



全講演者が壇上に上がってのパネルディスカッション

後、意見交換を行い、有意義な交流の場となった。翌日には研究交流科松原主任研、プリオン病研究センター岩丸研究員、林研究員が同行し栃木県下の畜産現場の視察をしていただき、Matthews 博士は 11 月 30 日から 12 月 5 日の短い滞在日程を終え帰国された。こうした交流を通して、英国獣医学研究所と動物衛生研究所のさらなる緊密な連携関係が築かれることを期待したい。最後に、Matthews 博士から所長宛てに届いた礼状の結びの言葉を紹介する。

“ I look forward to establishing on-going collaboration between our two Institutes in the coming months and years, and wish you success in getting your programme under way.”



寺門農研機構理事の挨拶
(写真提供：農水産技術会議事務局)

(研究交流科長)